

2022年度 委員会事業報告書

担当副理事長 平野匡彦

インクルーシブソサイエティ構築委員会 委員長 加藤大晴

1. 委員会開催日 (12回)

1/13	2/5	3/22	4/16	5/10	6/30
7/10	8/9	9/14	10/12	11/19	12/21

2. 事業報告

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| (1) わんぱく相撲(5月例会)の担当 | 5月28日 |
| (2) 10月例会の担当 | 10月22日 |
| (3) 公開事業の担当 | 4月20日・6月16日・7月20日・9月21日 |
| (4) 日本JC 京都会議の担当 | 1月21日～23日 |
| (5) わんぱく相撲愛知ブロック大会の担当 | 7月2日 |
| (6) 日本JC サマーコンファレンスの担当【横浜】 | 7月15日～17日 |
| (7) 新入会員の拡大 | 通年 |
| (8) 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

加藤大晴 伊藤嘉孝 安井貴仁 加藤康臣 松本香澄 沖 尚也 桑原 蓮 中川喜文 佐々木亮
飯田匡崇 (LOM内出向)

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会では、障がい者雇用を創出し、海部津島に住まう人々が障がいの有無にかかわらず自分らしく生きる機会が平等に享受できる地域を実現するために運動を行いました。

まずは、他者との身体的、能力的な違いを受け入れる心を養うことを目的とし、わんぱく相撲と障がい者スポーツ体験を実施しました。同学年の子ども同士で競い合う経験をするとともに、並行して実施した障がい者スポーツ体験において、設営のサポートをしていただいた障がい者と関わることで、自身とは異なる個性や能力を有する方々と自然と触れ合うことができました。子ども同士の個性や特徴、障がいの有無という「違い」を1つの事業で体感することで、子供たちが異なる個性を受け入れる心は養えたと考えます。しかし、目的達成のためには、障がい者を別世界の方々として関わるのではなく、すべての人が1つの社会やグループの中で様々な差異を理解することが重要でありました。その点では、わんぱく相撲と障がい者スポーツ体験という2つの手法を用いるよりも、同一競技の同じルールの下で、障がいのあるなしに関わらず競い合う手法を選択するべきであったことは反省点として申し送ります。

そして、障がい者雇用の創出というテーマに対しては、法律の雇用義務がない規模の中小企業が大多数を占める海部津島において理事長所信を達成するにはどうすればよいのか。その上で、来年度以降も当委員会の運動の効果を継続させるにはどうすればよいのかという点から運動発信を行いました。まずは、障がい者雇用という選択肢を認知していただくために公開事業を開催し、次に施設外就労や職場実習といった体験の場を設けていただくという流れで1年間の運動を行いました。公開事業を通して、参加企業の方々には障がい者の能力の高さに気付いていただき、障がい者雇用を前向きに検討するとの声もいただいたことから、障がい者雇用という選択肢を地域に認知していただくことに寄与したと考えます。その上で、

中小企業と障がい者の相互理解をより深め、障がい者雇用の創出と雇用後の定着率を上げるために職場実習のマッチングを実現することを目的に10月例会を開催しました。理解の促進をした上で職場実習をするという流れは適切であったと考えます。しかし、すべての事業や例会において参加者を十分に募ることができておらず、障がい者雇用に創出し、障がいのある者とない者が支え合って生きられる地域を築くことまでは達成できておりません。地域の中には、障がい者雇用について興味を示す企業や事業及び例会への参加に前向きな企業はありました。しかし、結果的に多くの企業に参加していただくに至りませんでした。事業や例会の場において、効果的に地域へ運動発信を行うためにも、広報戦略を緻密に練ることが重要であることを痛感しております。

1年を振り返りますと、年間を通しての広報や参加者の勧誘戦略に問題があり、効果的で広い運動発信ができませんでした。運動の対象者の1つである地域の企業に対しては、求人に意欲的な企業に事業参加を促さなければなりません。広報開始当初は地域の企業に対して、幅広く広報していました。また、求人が必要としている企業は、社業が順調ということもあり、事業や例会へ参加する時間を作ることが難しいという点も問題となりました。運動の対象者の立場や現状を理解し、適した広報をする視点が欠如していたことを反省点として申し送ります。また、開催する事業や例会の目的を適切に伝える広報ができなかったという問題もありました。障がい者雇用という言葉が先行し、公開事業や10月例会の趣旨が、チラシやSNSだけでは理解していただけではありませんでした。広報するにあたり、我々の伝えたい点と、読んだ方々の理解に齟齬がある広報をしてしまった点を反省点と痛感しています。運動の対象者の分析と広報において我々の意図を適切に伝える内容を突き詰めることが特に重要であることを申し送りいたします。しかしながら、公開事業や例会に参加していただけなかった地域の企業に対しても個別に働きかけをすることで、職場実習を受け入れた企業や、就労支援事業所などにコンタクトを取っていただいた企業はありました。その点を踏まえると、障がい者雇用への理解は促進され、支え合って生きられる地域への第1歩を踏み出せたと考えます。

5. 委員長所見

「障がい者雇用の創出」という題目を頂戴し、中小企業が大半を占める海部津島地域において障がい者雇用に創出させるのはもちろんのこと、この1年だけで運動発信の効果が途切れてしまわないためにはどうすればよいのかという点も含めて考えを巡らせた1年でありました。

公開事業については、地域に住まう障がい者の方々や参加企業の経営者や責任者の方々に参加していただきました。そして、公開事業内のワークショップの時間において、障がい者が実際に作業している姿を目にしたときに一般企業の方々から軒並みに前向きな反応を得られたことは大変嬉しいことでありました。障がい者雇用についての予備知識が少なかったからこそその反応でもあり、地域の中小企業に障がい者雇用に浸透させるという目標に光も感じました。だからこそ、参加者を十分に募ることができなかったことが悔やまれるとともに、広報戦略の重要性を痛感しました。広報を含めて最適な手法を用いて必死に動くだけでなく、委員会として年間のスケジュールも踏まえたうえで、実現可能な開催数を設定することができなかったと反省しています。また、地域の企業に障がい者雇用に啓蒙や浸透を図る前の段階として、当団体のメンバーにも障がい者に対する理解を深める時間を作るべきでした。地域の特別支援学校や障がい者の就労支援施設などで公開委員会を開催し、メンバーに障がい者雇用に対する理解をしていただければ、当委員会にとどまらず海部津島青年会議所が一体となって運動発信できたと考えています。

10月例会においては、能力的にも意欲的にも就労できる段階には達していない障がい者にも例会参加をしていただきました。自身の将来設計に危機感のない障がい者に対しても、意識変革ができ、就労に前向きになったとの声をいただきました。昨今顕在化してきた問題として、障がい者年金と家族の支援によって不満なく生活している障がい者も支援者がいなくなると就労の重要性に気付くという「障がい者の8

050問題」とも言える事例があります。その点に対しても、自身の将来に危機感のない方々に運動発信をしたことは意味があったと考えています。

障がい者雇用を推進するうえで継続的な運動の展開は不可欠な要素です。しかし、運動発信の効果を来年度以降も継続させるための例会構築をできなかったことは悔いが残ります。また、実際に地域において活動をしていると、就労支援をしている福祉事業所の経営方針にも温度差を感じました。むしろ障がい者が一般企業に就労することに消極的にさえ感じる事業所もありました。障がい者が地域の企業で活躍するためには、障がい者本人と地域の企業への運動だけでなく、福祉事業所や行政へも運動発信をしなければならないと感じています。

そして、障がい者雇用の創出に加え、わんぱく相撲海部津島場所の担当やわんぱく相撲愛知ブロック大会の実行委員長という担いも頂戴しました。わんぱく相撲は、子供たちに礼儀礼節や思いやりを身に付けてもらうことを主な目的に開催されることが多かったのですが、わんぱく相撲の開催意義にはより良い地域社会の形成と心豊かな青少年の育成という点もあります。その点からもわんぱく相撲という事業の中で、地域の障がい者と交流する機会を設けることができたことはうれしく思っています。未来において障がい者雇用を一層促進するためにも、子供のころから障がい者と関わる機会を作ることが重要と感じました。また、例年の5月例会よりも多くのボランティアに協力依頼を行い、8月例会に参加していただいた柳城女子大学などと知り合うことができました。新たなつながりのきっかけを作れたことは、喜ばしいことだと感じています。

わんぱく相撲愛知ブロック大会の実行委員長という担いは、運営協議会の開催から大会当日を経て、男女各々の全国大会の引率に至るまでには庶務もあり、多くの時間を割かれました。また、愛知県を代表するわんぱく力士を選出する場を設営する責任を感じるとともに、真剣に競い合う子供たちの姿からは学ぶことが多くありました。やりがいと責任を強く感じる役職を任せていただき、とてもありがたく感じています。

最後に、障がい者雇用の創出という担いに加え、わんぱく相撲の愛知ブロック大会の実行委員長という役割を与えていただいた平野伸弥理事長、ご意見をいただいた外部監事の皆さま、寛大な心で私を導いてくれた担当副理事長に感謝を申し上げます。また、当委員会が担う例会や事業に協力していただいたOBの方々や同期理事、海部津島青年会議所メンバー、地域の皆様にも重ねて感謝を申し上げます。そして、副委員長をはじめとする委員会メンバーからは多くの助言と協力をしてもらいました。とても嬉しく思うとともに、感謝を述べて委員長所見といたします。誠にありがとうございました。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	100,000	事業費	33,837	(3)	100,000	(3)	33,837
合 計	100,000	合 計	33,837	合 計	100,000	合 計	33,837